

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	馬 詰 武
	主査	教授	豊嶋 崇徳
審査担当者	副査	教授	水上 尚典
	副査	教授	丸藤 哲
	副査	教授	松居 喜郎

### 学 位 論 文 題 名

妊娠中の血小板機能の変化と母体循環の変化についての病態生理学的研究  
(Pathophysiological Changes in Platelet Function and Morphofunctional  
Cardiac Changes in Pregnant Women)

平成 29 年 2 月 1 日 (水) 17 時 40 分から 18 時 40 分まで、医学部中研究等 5 階において申請者の学位論文審査が行われた。申請者は第一部で妊娠中の心形態・機能の変化を心エコー検査とバイオマーカーから評価し、妊娠後期でなく産後早期にもっとも容量負荷が増加すること、妊娠中の心形態・機能の異常をスクリーニングするのに BNP のみならず Troponin I も有用であること、また第二部で妊娠中の血小板機能は妊娠初期に抑制され、双胎では妊娠初期に抑制された血小板機能が中期には抑制が解除されること等発表した。発表後、副査松居教授より妊娠中の心形態・機能の生理的变化と病的変化の違いについて、また解析に用いた統計手法についての質問があった。続いて副査丸藤教授から心形態・機能の異常を診断する精度は BNP、Troponin I と同様に推定糸球体濾過量でも良好な結果が得られているが、実臨床では推定糸球体濾過量だけでも十分なマーカーになるのではないかと、またこれらのバイオマーカーを独立変数に、心形態・機能の異常の有無を従属変数にしたロジスティック回帰分析を行っているのかについて質問があった。そして副査水上教授からの本研究で得られた新しい知見と今後の展望についての質問があった。最後に主査の豊嶋教授から、心エコー検査と採血を研究者本人が実施したのかについて質問があった。これら質問に対して申請者は今回の研究結果や既報論文を引用し、誠実かつ真摯におおむね適切な回答をした。

本論文は、妊娠中の心形態・機能の変化を網羅的に解明し、基準値を策定し、異常のスクリーニング方法を提起したこと、妊娠中の血小板機能を解明した点において高く評価される。審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。